

さとうきびの生育初期におけるメイチュウ類の防除対策について

県内全域において、メイチュウ類（イネヨトウおよびカンシャシクイハマキ）の発生が多い状況にあります。今後の被害拡大が懸念されますので、生育初期の防除対策を徹底しましょう。

1 被害の発生状況

各地域における5月中下旬の調査の結果、春植・株出圃場における芯枯茎率は下表のとおりであった。

	春植・株出圃場における芯枯茎率(%)			評価 ¹
	今年	前年	平年	
沖縄本島	5.4	3.9	1.2	高
宮古島	3.8	1.2	2.2 ²	高
石垣島	1.4	1.2	2.1	並

1 平年値との比較
2 データ不足のため例年値

2 イネヨトウ及びカンシャシクイハマキの発生状況

各地域における5月の合成性フェロモントラップによるイネヨトウ及びカンシャシクイハマキのトラップ当たり日当たり誘殺虫数は下表のとおりであった。

なお、与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。

		誘殺虫数/頭/トラップ/日			評価 ¹
		今年	前年	平年	
イネヨトウ	沖縄本島	2.9	-	-	-
	宮古島	3.1	-	-	-
	石垣島	1.4	-	-	-
カンシャシクイハマキ	沖縄本島	8.1	1.0	5.5 ²	多
	宮古島	15.9	50.4	52.1	少
	石垣島	10.9	5.8	8.1	並

1 平年値との比較
2 データ不足のため例年値

3 発生生態および被害

(1) イネヨトウ(図1)

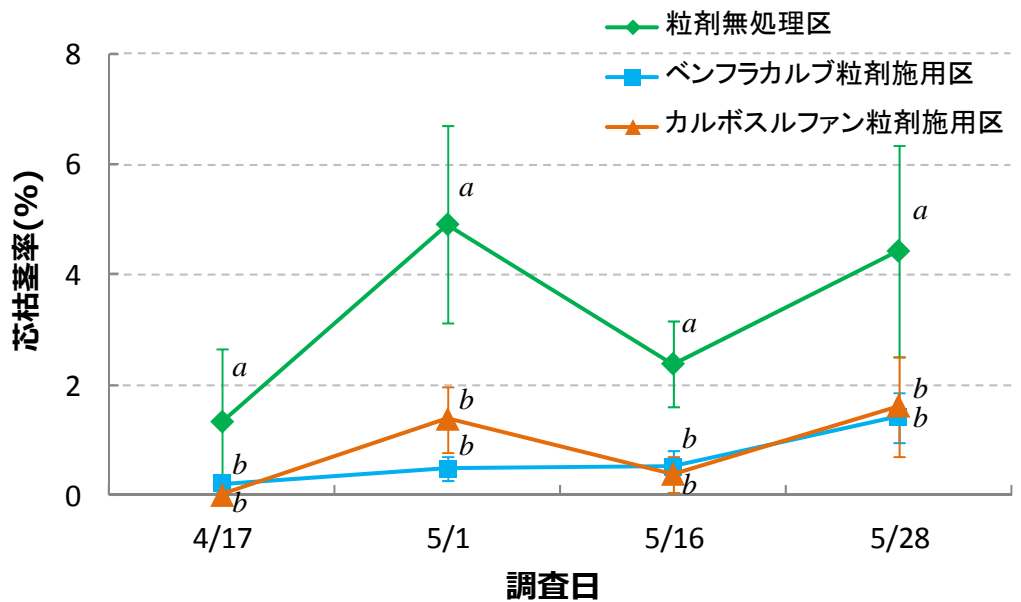
- a 沖縄では年5～7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は400～700卵に達する。
- c ふ化幼虫は、葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し、生長点を加害し芯枯れを起こす(図2)。
- d 初期被害は圃場周縁部で見られ、圃場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に発生するため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある。
- e 被害圃場およびイネ科雑草地が発生源となり、新植圃場に侵入する。

(2) カンシャシクイハマキ(図3)

- a 沖縄では年6~7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉や茎などに1~数卵ずつ産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は 200~500卵に達する。
- c ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し生長点を加害し芯枯れを起こす。
- d 被害は圃場に散在的に発生する。

4 イネヨトウ等防除実証展示圃調査結果

- (1) 沖縄本島北部地域の夏植4圃場において、平成23年11月にイネヨトウ等防除実証展示圃を設置した。
- (2) 培土時にベンフラカルブ粒剤またはカルボスルファン粒剤を施用した区は、培土時粒剤無処理区と比較して芯枯茎率が低く推移した(下図)。
- (3) 培土時粒剤施用区ではイネヨトウの被害はほとんどみられなかったが、一部圃場では、培土時粒剤無処理区においてイネヨトウによる坪枯れがみられた(図5)。



GLMM(family = binomial), Tukey多重比較
同一調査日内の異なる文字間に有意差あり(p < 0.05)

図 イネヨトウ等防除実証展示圃における芯枯茎率の推移

5 防除対策上注意すべき事項

- (1) 周辺圃場におけるメイチュウ類の発生の有無を確認する。
- (2) 芯枯茎が発生した場合は、茎を地際部より深く切り取り処分する。
- (3) 食入初期の幼虫を対象に薬剤防除を行う。
- (4) 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- (5) 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。
- (6) 乳剤を散布する場合は、葉鞘内に薬液が浸透するように丁寧に散布する(図4)。
- (7) 天敵を温存するために、散布剤による薬剤防除は6月までに徹底して行う。
- (8) 薬剤散布の際は飛散(ドリフト)防止に努める。



図1 イネヨトウ幼虫



図2 イネヨトウによる芯枯れ



図3 カンシャシンクイハマキ幼虫



図4 葉鞘内へ十分に薬液を浸透させる

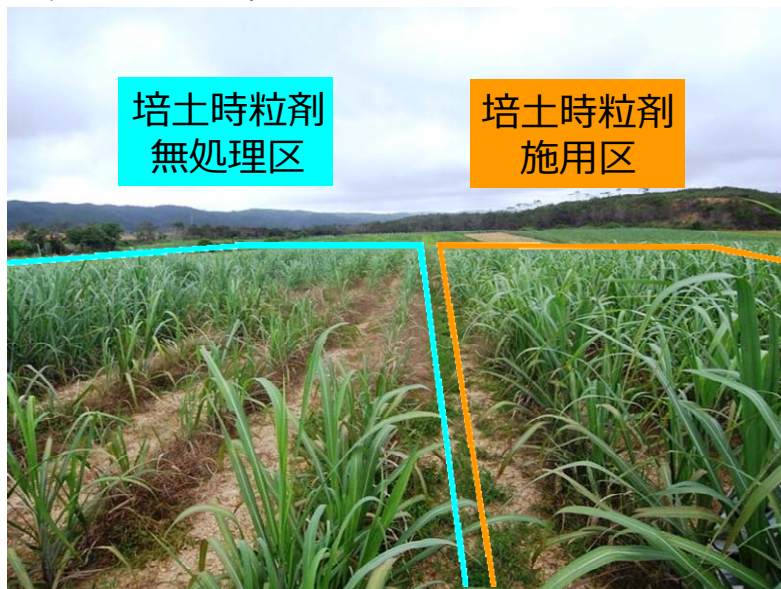


図5 イネヨトウ等防除実証展示圃でみられた坪枯れ

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★
TEL：(本所)098-886-3881、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0908-82-4933
ホームページアドレス： <http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>